

令和7年2月4日

三木市教育委員会 様

三木市学校給食審議会  
会長 水野 千恵

学校給食の実施に関する重要な事項について（答申）

令和5年4月24日付け教育委員会諮問第1号で諮問のありました「学校給食の実施に関する重要な事項について」のうち、「三木市学校給食に関する課題について」に関して、当審議会において慎重に審議を重ねた結果、下記のとおり答申します。

記

三木市学校給食に関する課題について

1 米飯回数の見直しについて

現在の米飯給食の実施回数は、週当たり3.5回、パン給食の回数は、1.5回となっています。また、今年度からパンの小麦粉を県産小麦粉に変更し、地産地消の促進ができていることや、日本型食生活のよさを園児・児童・生徒に伝えられるよう、主食は米飯を基本としつつも、週に1～2回は、パンを取り入れることが献立の多様化に繋がることから、現状の回数が望ましいと考えます。

2 市内産野菜の使用促進について

学校給食において地場産物を活用することは、児童生徒が地域の食文化や伝統に対する理解を深め、食への関心と感謝の心を育むことに繋がります。

市内産野菜の使用率は、令和5年度が重量ベースで31%と徐々に増加しています。今後も、三木市産の地場産物への理解と感謝の心を養い、郷土に愛着がもてるよう、生産団体と調整し、可能な限り少しずつ、種類や量が増加するよう努力し続けることが必要です。

さらに、保護者にも給食で地場産物を使用していることを分かりやすく周知し、地産地消の意識を高めていくことが必要と考えます。

3 農薬や化学肥料等をできるだけ使わない食材の選定について

環境負荷の少ない農業の価値への理解を深めるため、第三者機関が認めた有機農産物を学校給食に活用することは、生きた教材になると考えます。

ただし、有機農産物はまだまだ生産量に限りがあり、価格も高いことからすべてを有機農産物にすることは困難であることから、まずは、有機農産物の活用について一品目ずつ取り入れ、市の関係部局全体で有機農産物の活用について検討していくことが必要と考えます。

## 答申に至る経緯

今回の検討にあたり、保護者が給食にどのようなイメージを持っているのか、給食に対して望んでいることを把握するため、令和5年11月にアンケート調査を実施しました。その他にも、農業振興課から三木市の農業について話を聞き、現状を把握するとともに検討の参考としました。

### 1 米飯回数の見直しについて

アンケート結果をみると、主食の回数について、「今のままがよい」の回答が、保護者は66%、児童生徒は53%と「ご飯やパンの回数を増やす」より多く、現状の回数で満足していることが分かりました。

主食の米は、全量、市内産を使用しており、パンの小麦粉は今年から県産に変更しています。夏場はパンが食べにくいですが、県産小麦粉になってからしっとりとして美味しくなったという意見や、栄養教諭から献立の幅を広げるためにも、週に1~2回は、パンを主食とすることで献立の幅が広がるという意見がありました。

### 2 市内産野菜の使用促進について

アンケート結果をみると、保護者は国産、兵庫県産、市内産の食材を活用することを望んでいることが分かりました。

また、市内産の野菜を使用していることを知っているのは、保護者75%、児童生徒は79%であったことから、さらに、周知が必要と考えます。

市内産野菜の使用率は、生産団体と毎年、調整会議を開催し、品目数を徐々に増加していったことにより、下表のとおり徐々に増加しています。これからも、生産団体と調整し、少しずつ、品目や量を増加させて行くことが、地産地消の推進に繋がります。

【市内産野菜の年度別使用量と使用率】

(単位：トン)

	年 度	平成 30	令和 1	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5
使用量	全 体	139.6	128.4	120.9	133.9	126.0	125.3
	うち市内産	29.1	26.6	32.2	33.2	35.2	38.2
市内産の使用率		20.9%	20.7%	26.6%	24.8%	27.9%	30.5%

### 3 農薬や化学肥料等をできるだけ使わない食材の選定について

保護者アンケートでは、有機農産物の使用を望む意見があり、国も「みどりの食料システム戦略」、「SDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）」の中でも有機栽培は持続可能な農業の促進として期待されています。

アンケート結果をみると、有機農産物の活用について「給食費が上がらなければ取り入れてほしい」が46%と最も多く、「給食費が上がっても取り入れてほしい」が16%となり、有機農産物の活用を望む意見が見受けられました。

また、いくつかの自治体でも有機農産物の食材を一部導入している状況や、

市内でも有機JAS認定を受けた農場があることを確認しました。

そこで、今年度は県の補助金を活用し、2品の有機農産物を給食に使用しました。給食で活用することにより、児童生徒や保護者が有機栽培について理解を深め、環境教育を促進し、三木市の農業の強みとなるためにも、継続することができるよう市全体で検討することが必要と考えます。

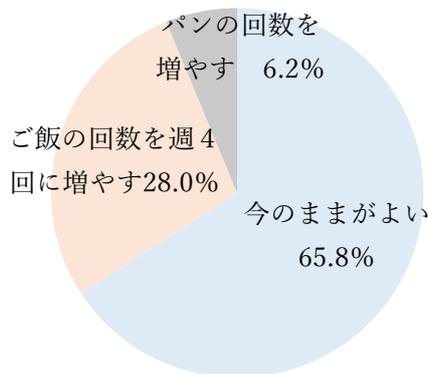
\*給食アンケートの実施年度は、保護者が令和5年度、児童生徒は令和6年度となります。

#### 【資料】

令和5年度 保護者アンケート結果抜粋

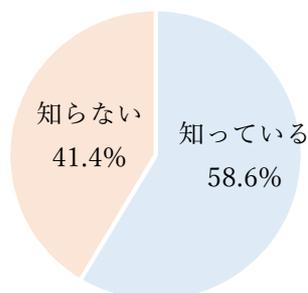
【質問7】主食の回数について、どう思われますか。(現行：週に米飯3.5回、パン1.5回)

米飯回数について「今のままがよい」という意見が66%と多く、次に「ご飯の回数を週4回に増やす」が28%となりました。このことから、米飯回数はこのままの回数でよいと考えます。



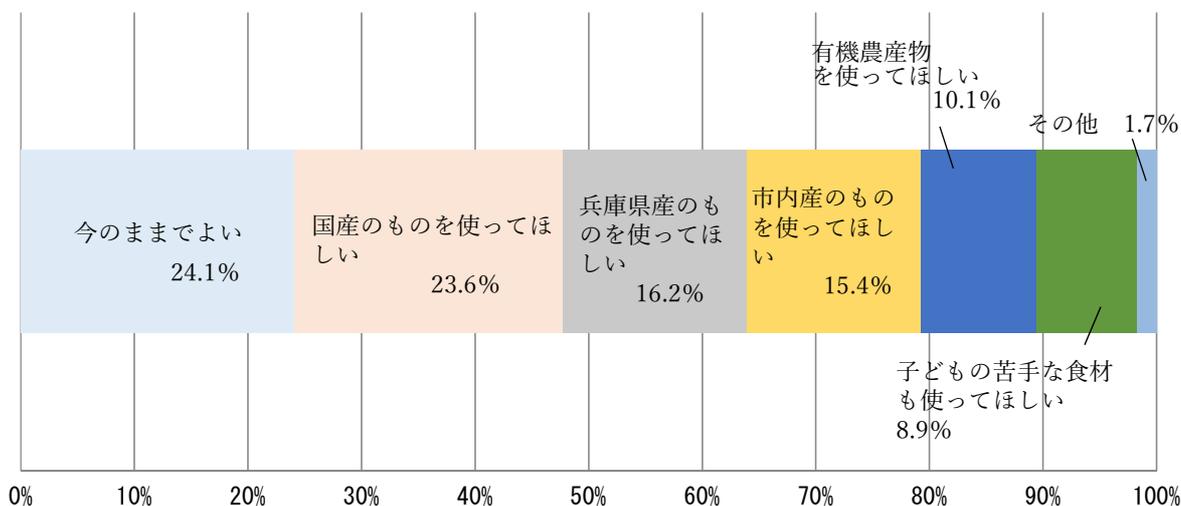
【質問8】米は全量、市内産を使用していることを知っていますか。

すべて市内産の米を使用していることを約59%の保護者が知っていることが分かりました。毎月、献立表に記載していますが、周知が不十分だと考え、今まで以上に多くの方に周知していく必要があります。



【質問 1 1】 学校給食の食材について、希望はありますか。（3 つまで）

「今のままでよい」が最も多く、「国産のものを使ってほしい」「兵庫県産のものを使ってほしい」「市内産のものをもっと使ってほしい」という希望が続きます。「有機農産物を使用してほしい」は、約 10%の割合でした。



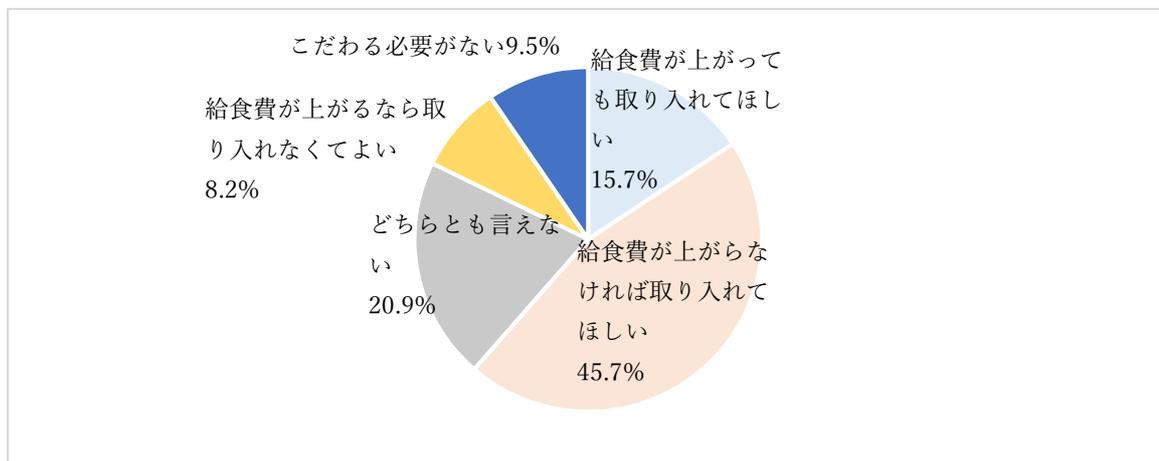
(その他意見)

「牛乳をなくしてほしい」(4 件) 「無農薬、無添加の食材、調味料を使ってほしい」(2 件) 「各地の特産品を使用し、地理に紐づけた食育をしてほしい」「店頭で販売できない食材も学びながら使ってほしい」「肉を増やしてほしい」「トリチウムやストロンチウム等の放射能検査されていないので、安全性の高い産地(海外)の食材を使用してほしい」等

【質問 1 3】 今後、有機農産物\*を給食に取り入れた方がよいと思いますか。

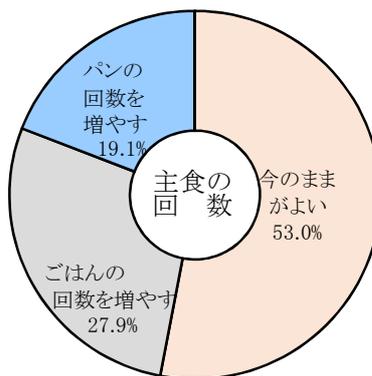
\*有機農産物:化学肥料や化学合成農薬を使用せず栽培する等、有機 JAS 認証された農産物

「給食費が上がらなければ取り入れてほしい」という意見が約 46%と多く、「どちらともいえない」「給食費が上がっても取り入れてほしい」と続きます。



令和6年度 児童生徒アンケート結果抜粋

【質問8】主食の回数についてどう思いますか。(現行：週当り米飯3.5回、パン1.5回)



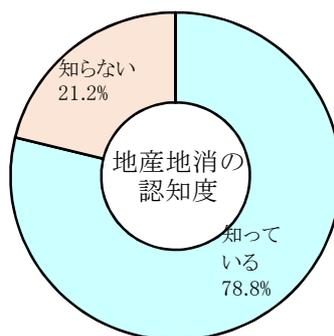
【学年別】

	小2年	小4年	小6年	中1年	中3年	計
今のままがよい	56.7	55.4	46.1	56.4	50.5	53.0
ごはんの回数を増やす	17.7	26.0	35.0	27.2	33.2	27.9
パンの回数を増やす	25.6	18.6	18.9	16.4	16.3	19.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数(人)	282	334	297	280	295	1,488

「今のまま(米飯週3.5回)がよい」が最も多い。小学校2年生だけが「パンの回数を増やす」の割合が高いが、他の学年は「ごはんの回数を増やす」の割合が高くなる。

男女別で比較すると、男子の方が「ご飯の回数を増やす」の割合が高い。

【質問11】給食に三木市産の米や野菜を使っていることを知っていますか。



【学年別】

	小2年	小4年	小6年	中1年	中3年	計
知っている	52.8	82.0	89.2	86.4	82.4	78.8
知らない	47.2	18.0	10.8	13.6	17.6	21.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答者数(人)	282	334	297	280	295	1,488

昨年度と「知っている」割合は同じであった。小学校は、学年が上がるにつれ、認知度は上がってきている。昨年と比較すると、小学校2年生の「知っている」の割合が17.7ポイント減少し、中学校3年生は10.5ポイント増加している。

男女別で比較すると、女子の方が「知っている」の割合が多い。